

がんばろう 南三陸町

復興第 37 号

南三陸マイタウン情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

― 防災対策庁舎の動き(1月)そして現在③ ―

◎ 町長「知事からどういう話があるのかわからない」(19日)

毎月 1 回開催される「移動町長室」が、今年初めて 19 日に歌津総合支所で開かれた。

「防災庁舎解体を望む遺族会」のメンバー 17 名が参加した。「移動町長室」は住民の要望を聞く場として開いているが、この日は保存問題について質疑が集中した。

28 日に知事との協議が予定されている「県有化」について遺族会は、町長・議会で決定した「解体方針ぶれないで」と要望した。町長は「報道以外県の考えは分からない」と賛否については明言を避けた。

◎ 南三陸町の町民30代の若手有志 3 人が請願書(26日)

28 日の村井知事と佐藤町長の協議を前に「議論の場を作って」と、町と議会へ「防災庁舎保存問題」に対し、30 代若手有志が請願書を提出した。

請願は保存の是非は、町内でまだ十分な議論が必要と話し、提出された。町長は「内容を把握してなくコメントできない」、議長は「議会で協議し取り扱いを決める」と語った。

◎ 村井知事「20年間県有化」、佐藤町長「あらためて検討」(28日)

南三陸町防災庁舎の「解体・保存問題」は、村井県知事が町に 20 年間の「県有化」で、保存の是非の議論が町内で再燃しそうだ。

県など第三者が関与すべきと「有識者会議」が設置され、平成 43 年 3 月 10 日まで県有化とし、庁舎は町からの譲渡により県が施設の維持管理を行う。村井知事は「広島原爆ドームも保存に 20 年かかった」と話す。

早期解体を訴える遺族は、町庁舎前で横断幕を掲げ、「防災庁舎で亡くなった父や母、息子や娘、夫や嫁……辛いです、悔しいです」と訴えた。

パブリックコメント(住民意見)が500件！

4 月に入り町から全世帯へ意見の募集を送付した。町民からの意見、聴取りのコメントや考えが 500 件届いた。

町長は記者団に「5 件か 10 件ぐらいと思っていたが、関心が高い事が裏付けられた」と話す。県有化については明言を避けた。

皆なでがんばろう！(従業員の生活を守る使命から)

登米市に旭洋設備工業が物流センターを建設

旭洋設備工業は、昭和 46 年創業で社歴は今年で 44 年を迎えた。管設備工業を主体としていた会社だった。

積水テクノ成形代理店を平成 10 年より立ち上げ、地下貯水滞水材「クロスウェーブ」と、工事用工法である仮設道路「プラロード」の工事レンタル事業の拠点として、登米市中田地内に「プラロード東日本物流センター」を新築した。新築落成記念式典を登米市「ホテルサンシャイン佐沼」に於いて、県内外から多くの来賓関係者 200 人を迎え開催された。

挨拶の中で、旭洋設備工業株式会社及川博之社長(本社仙台市)は、大震災により資材置き場や自宅を失った。共に被災した従業員の家族の生活を守るという使命から、登米市の知人を訪ね事業再開の支援をお願いした。登米市長様や知人・友人の力と、みやぎ登米農業協同組合様の協力の元、地権者 5 名の温かいご理解をいただき、物流センター落成の運びとなったと話した。

現在「クロスウェーブ製品」は全国 5700 件で貯水量は 147 万トンとなり、災害公営住宅、学校、公園などで洪水抑制に貢献し、「プラロードも農業土木、電力会社などで需要が加速している」と語る。

登米 IC から 1k と、今後完成する南三陸 IC や、石巻、仙台へのアクセスとともに、宮城県北高速幹線道路の整備で、高速道との利便性が期待できる。南三陸町の支店が津波の被害を受け、教訓から「リスク分散」を図る目的で 2012

年 10 月に開発に着手し、26 年 10 月の落成となった。

お世話になった南三陸町・登米市への恩返しの意味でも、地域の経済の発展に寄与したいと考え、今年は地元からの雇用を図り新たな人材育成にも取り組んでいると言う。

布施登米市長は「県北地域の発展と交流のネットワークを見据えた物流拠点の整備は、沿岸被災地の 1 日も早い復興への足掛かりとなる」と期待をよせる。

村井嘉浩県知事のビデオメッセージを一美夫人が紹介した。仙台市議会議長の西澤啓文氏の発声で乾杯し竣工を祝った。

また、9143 m²の土地を譲渡してくれた地権者様も招待し、感謝状を贈った。今後は「この立地条件を活用し、全国のお客様に満足してもらい、地元経済の発展に寄与していきたい」と語り、「皆様の協力のお陰です」と話した。

志高校訓「真・和・敬」

感謝の気持ちを忘れずに！

大震災から 5 年目を迎えた、4 月 9 日肌寒い体育館に於いて平成 27 年度の入学式が行われ、新入生を迎える拍手に会場は包まれた。1 年 1

組情報ビジネス科第 20 回生の 14 名と、1 年 2 組から 4 組までの普通科 70 回生の 87 名総計 101 名の、希望に胸を膨らませた新入生が入場が始まった。

入学許可は生徒一人一人名前が呼ばれ、その緊張感が父母まで伝わってくる中、新任の山内松吾校長が「入学を許可します」と新入生に伝えた。

山内学校長の挨拶では、始めに「温かく見守ってくれた方々への感謝の気持ちを忘れないで下さい」と語りかけた。3 つの学校生活で大切な事として、1 つに「伝統を受け継ぎ発展させて下さい」、2 つに「夢を持ちその実現に向け精進して欲しい」、3 つ目に「ふるさとを誇りに思い、感謝の気持ちを忘れないで欲しい」と述べた。

志津川高校の校訓にも触れ、「真・和・敬」の意味を伝えた。「真実の追及・共に力を合せ和を持って・自他の敬愛の心」で、志高生の誇りを持って日々を過ごして欲しいと話した。最後に「私たちの原点はふるさとにある。みなさんの若い力がふるさとに必要です」と結んだ。

町長祝辞では最知副町長が代読し、「命の大切さに思いを巡らせ、君たち若いみなさんに(南三陸町)創建がかかっている」と述べ、父母へは「大人の階段は一人では登れない。歩みの途中で苦しみ悲しむ時があった時はお願ひしたい」と語った。

入学生代表の及川咲季(歌津)さんが、「学業に精励することを誓います」と宣誓の言葉を述べた。今年も在校生で志高校歌を披露した。光あり・希みあり・栄えあれや・志津川高校と。



山内松吾校長

南三陸町歌津に東日本大震災慰霊碑建立



地区の死亡・不明の 119 名の名前刻む

「早く慰霊の場を」との家族の願いが叶った。旧歌津駅の裏山の、伊里前市街地そして歌津湾を望む高台に、慰霊の丘が整備された。4 月 29 日 10 時から慰霊碑の入魂式が家族と町民が集まり、慰霊碑建立に立ち会った。

入魂式に先立ち、集まった 150 名全員で海に向かい黙祷で入魂式は始まった。歌津地区の地元の西光寺・津龍院の三人の方丈様の読経の中で、亡くなられた家族に思いを馳せ、参列者が一人ひとり白い菊の花を献花した。

「鎮魂の森」は前歌津町長の牧野駿さんが、自費で 1 ha の山を整備し、「誰もが手を合わせられる場所を」と、歌津を見下ろせる場所に 119 名の名前を刻んだ慰霊碑を建立した。設計は世界的建築家の安藤忠雄氏が手掛け、四季折々の草花で周囲を包んでいる。桜の苗木 15 本は、防災庁舎で亡くなった歌津地区の職員の数で、慰霊碑を包むように配置した。牧野さんは「後世に子供たちにこの大震災を語り継ぎたい」と話す。

慰霊碑には「俱会一処(くえいっしょ)」の文字も刻まれ、あの世で再会できるという意味である。家族・友達の刻まれた名前を手でさすり、在りし日の事に思いをめぐらせていた。



牧野 駿さん

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成27年(2015年)
～ 地元報道より ～

1 月の出来事

◇5 日南三陸町の仕事始め式にあたり、ベイサイドアリーナに約 280 人の職員が集まった。新採用 3 人と派遣職員 2 名に辞令を交付した。佐藤町長は「復興の成果が目に見える一年であり、歴史に残る仕事をしている」と語った。

◇5 日南三陸町「新年懇親会」が南三陸プラザで開催され、100 名の町内の産業・教育関係者が集まった。町長は復興に向け「全身全霊」で取り組む事を語った。4 日には入谷・歌津地区で「新春のつどい」が開かれた。

◇南三陸町新商店街の施設整備にあたり、出店 46 店と当初計画を 3 割下回った。志津川地区は 6 店減り 34 店舗となり、28 年 11 月完成を目指し、八幡川左岸の観光交流ゾーン内約 2ha に新設する。歌津地区は 8 店減り、12 店舗で伊里前地区での再建を計画する。商店施設の運営はまちづくり会社「(仮称)南三陸まちづくり未来」が主体となり出店者や商工会のほか、町も出資を検討していて、資本金は 4000 万円を予定している。出店に対しまだ検討中もある。月額賃料・共同管理費は 1 区画(15 坪) 7 万 5 千円以上を想定している。他に保証金や出資金も別途必要となる。

◆気仙沼市の人口が発表され、人口は 1 年間で 808 人が減少し、世帯数では 120 世帯の増加となった。唐桑が 151 人と減少が大きく、新月と面瀬の人口が増加している。気仙沼市の 26 年末現在の人口は 67657 人で、26069 世帯となった。

◆気仙沼市の水道事業が人口減少で経営が厳しいと今後を想定。向こう 26 ～ 35 年の 10 年間の新ビジョン案を作成した。

◇南三陸町には昨年未まで、14 万 2 千人のボランティアが訪れている。こうした方々 1 万 4 千人に招待状を出す。震災を風化させず、継続的なつながりを呼び掛けるきっかけにする。「感謝の集い」と題し交流会を行なう。

◇1 月 10 日の「110 番の日」の啓発活動を志津川保育所でおこなった。「いたずら電話は絶対しないように」と呼びかけた。また防犯面では「知らない人についていけない」などを幼児に語りかけた。同署内での 110 番通報は 286 件があり、15% が誤報だった。その他に復興工事の「交通渋滞」の苦情も多かった。

◆気仙沼市の職員給与 4 % 削減終了となり、県で公表している「ラスパイレス指数」が仙台を除く 12 市で 3 番目に高い水準となった。

◇南三陸町の成人式が開催され 159 人(対象 192 人)が門出を祝った。佐藤町長は「悔いのない人生を自らの力で切り開いてほしい」とエールを送り、新成人を代表して後藤さん(戸倉)が「町の復興に貢献できる大人になります」と話した。会場には遺影を持った町職員の高見さん(戸倉)が「町の復興に一層頑張ろうという気持ちが生まれた」と話す。津波で友をなくし一緒に成人式に参加した。気仙沼市は 787 人の対象者のうち 689 人が出席した。

◇南三陸町の出初め式がベイサイドアリーナで開催された。消防団・交通指導隊など関係者が 250 人集まった。「安全安心な町づくり」へ思いを新たにした。

◇気仙沼沿岸のワカメ養殖は順調で、2 月 5 日からワカメボイル作業が始まり、浜では再生に手応えを感じている。昨年は 6 億 84 万円の水揚げだった。

◇南三陸町の土地買い取りが、約 90ha のうち 82ha と全体の 9 割となった。残っているのは漁

第12回宮城県テコンドー選手権大会(結果報告)

日時 2015 年 4 月 19 日

会場 岩沼市総合体育館ビックアリーナ

南三陸町テコンドー協会は沿岸部唯一の練習所で、今大会を目標に技術の向上を目的に練習に励んでまいりました。大会には 6 名がキョルギ(組手) プムセ(型) の部に出場大活躍いたし、南三陸町の名声を高めてまいりました。特にキョルギの試合は 1 分間 3 ラウンドで厳しい試合でしたが、高度な技を幾度と



南三陸町のテコンドー大活躍

なく繰り出し大健闘いたし、今後の活躍に大きな期待がもてました。結果は下記のとおりです。

プムセ 小学生の部

第 3 位 三浦真広(伊里前小 3 年)

男子中学生一般の部

準優勝 高橋東馬(歌津中 2 年)

キョルギ

小学 3 ・ 4 年重量級

第 3 位 三浦琥珀(名足小 4 年)

小学校 5 ・ 6 年女子の部

準優勝 高橋玲菜(伊里前小 6 年)

第 3 位 三浦桃香(伊里前小 6 年)

(寄稿「南三陸町テコンドー協会」及川久二郎)

民の作業用地となった。志津川市街地 89.1% 志津川郊外 87.6%、歌津 81.6%、戸倉 80.2% となった。買い取り価格は 24 年 10 月 1 日時点で 1 m² 当たり平均で、志津川市街地 1.5 万円～ 2.5 万円、歌津は 6 千円、戸倉 5 千円と震災前と比べ 20% 下落した。

◆宮城県は県内の 8 カ所を防災拠点とする事を決めた。気仙沼・本吉圏は今後廃校する西高校とし、28 年から施設などの整備をする。登米市は長沼フートピア公園とし、石巻市は総合運動公園となり、他 5 カ所を決め整備する。

◇志津川市街地のかさ上げは、海拔 10m とし、都市計画での五日町・十日町・新井田など着々と工事が進んでいる。今後国道 45 号は、上の山ふもとを通り新井田の国道ルートへ合流し、国道 398 号は五日町の橋脚も完成し、向いの駅前側の工事もあり、現 398 号と連結となり、国道 45 号と交差工事へと進んでいる。

◆気仙沼管内では、高齢者の免許証の自主返納が増加している。昨年は 60 件多い 96 件だった。管内人身事故は、154 件で 25% が高齢者だった。昨年 11 月までの管内運転人口は、4 万 3590 人で 65 才以上が 25% を占めている。

◇南三陸署は 16 日、管内外の 4 団体 18 個人を表彰した。管内の防犯・交通安全に協力した方々で、仙台の須藤富夫さんも表彰された。

◇阪神淡路大震災の発生にともない、6434 人が犠牲になった 17 日、20 年の節目にあたり、南三陸町佐藤町長も、兵庫県と西宮市の追悼式に出席した。派遣職員の継続も要請した。

◇南三陸町では女川原発事故を想定し、27 日に住民の登米市への避難訓練を、県と 7 市町が参加しておこなう。

◇志津川魚市場の復旧工事に着手する。高度衛生管理対応の施設とし、外壁で魚市場を囲み、鳥の進入を防ぐなど、衛生管理を重視し、水揚げや漁獲高の増収増益を図る。工費は 22 億円で 28 年 1 月の供用開始を目指す。

◇南三陸町の商店街形成の 10 年 20 年を見据えた、再生計画策定へ着手する。志津川は 6 店減り 34 店舗、伊里前は 8 店舗減少し 12 店舗での整備になる。建設費は約 4 分の 3 が補助され、今後新設される「まちづくり会社」が運営をする。

八幡川中橋のデザイン構想を町協に説明

被災前に木造の橋として志津川地域住民に親しまれた中橋が、28 年度完成を目標に整備をはじめ。地元スギ材をふんだんに使用し、二層構造で上部は 13m で、下部は 2 m ～ 5 m と川面に近く親水性を重視した。橋長は約 74m で神社の参道や鳥居をイメージし、被災前の行事「かがり火祭り」などのイベント会場として活用を考慮した。隈氏のデザイン構想によるもので、今年 9 月に下部工事に着手し、28 年 12 月を完成目標として、「まちびらき」に合せ、にぎわい創出が期待される。

◇町の管理委託制度による「神割崎キャンプ場」

は、管理者が運営を断念し、新しく事業者を募集する。

◇志津川地区で「志教育」の発表会があった。志小・志中・志高・入谷小と戸倉小を含めた 5 校によるもので、地域の一員として復興の決意を新たにした。

◆本吉小泉川のサケ漁が 26 日終わった。今期の捕獲数は 2 万 8529 匹と前年より約 2500 匹減少した。採卵は 400 万粒増えて、1800 万粒となった。

◇25 日「文化財を守ろう」と、歌津伊里前の町民俗資料館で、南三陸消防署が火災防衛訓練を行った。

◇町が 25 年 9 月に設立した「復興計画推進会議」は、南三陸町に人口流出の対策などで、雇用増へのアイデアを提案した。27 年度内に完成する三陸道志津川 IC(仮称)の周辺への娯楽施設や、高齢者の住む住民への家事代行などの起業をと、提案した。その他にも「観光立町」を目指す町の集客を図るため、町内を訪れたボランティアを巻き込んだ U ターン I ターン策、町民のニーズを踏まえた雇用の場確保などもあった。

◆気仙沼市内初の南郷災害公営住宅が 1 月 31 日から震災 4 年目を前に入居開始となる。住宅は 2 号棟(40 戸) 3 号棟(35 戸) で 6 階建ての鉄筋コンクリート建て。3 月には残る 10 階建ての 1 号棟が完成し、90 戸ができる。南郷住宅だけで 165 世帯が入居となる。

◇南三陸町内の仮設住宅を小規模の沿岸部を優先して、年度内に集約する方針をしめた。現在、登米市・町内の仮設数は 2176 戸あり、入居者は 1736 戸(1 月 20 日現在) で 440 戸が空き室となり、入居率は 79.7% となっている。防集団地や自己再建が進む歌津地区では、入居率が 3 割、空き室が約半数となった団地も数カ所あり、自治会も解散している。5 年目を迎え荷物が多くなったり、子供の成長により部屋が手狭となるなど、町・議会に有効活用をと陳情が出されている。

◇気仙沼線の鉄路復旧へ、今国会で改正案の提出が検討されている。この改正案が国会を通ると、4 分の 1 の復旧費が国から支出される。

◇南三陸町では、市街地を結ぶ「港橋」のデザインを募集するコンペを、若手建築家から公募する。選定委託業務料は 1130 万円で、議会が予算が承認されている。

◇気仙沼・本吉地区の「カキ養殖」は、戸倉を含めた 3 地区で生産を終了した。南三陸は引き続き生産をする。今期は生育・単価も良好に推移した。

八幡川中橋構想図

